

ツマアカスズメバチ緊急防除の実施について

令和4年5月以降、福岡市等で特定外来生物(※)であるツマアカスズメバチが確認されてきたことを受け、環境省は市内等で生息状況等調査や、巣の発見と駆除を目的に巣の探索調査を実施しています。また、その結果も踏まえつつ並行して行われた九州大学による調査では、東区で1個の巣が発見されました。

他方、全ての巣を発見できない可能性も考慮し、巣の位置が不明であっても防除が可能な化学的防除も環境省が東区下原周辺で実施することとなりましたので、お知らせします。

※外来生物(海外起源)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から、環境省が指定

1 経緯

- 5月9日 4月28日に東区で発見されたスズメバチが、専門家の同定によりツマアカスズメバチの女王バチであることを確認。
- 5月19日～6月6日
初確認を受けて環境省が緊急調査を実施。市内ではツマアカスズメバチは未確認。
- 8月以降 九州大学による調査で久山町及び篠栗町においてツマアカスズメバチを確認。
- 9月上旬～ 環境省が市内等で生息状況調査及び巣を発見するための探索調査を実施。

2 今般の調査及び防除の概要

環境省が9月10～25日に実施した生息状況調査において、東区、久山町及び篠栗町内でツマアカスズメバチ約30個体が確認されました。その結果を踏まえつつ並行して行われた九州大学の調査において東区で1個の巣が発見されており、駆除予定です。引き続き、環境省は市内で巣が存在する可能性が高いと考えられる東区下原周辺にて巣の探索調査を実施しており、さらに、巣が発見できない場合でも防除を行える方法として、同じ範囲で市販のスズメバチ駆除用薬剤を用いた化学的防除も実施します。薬剤には、ミツバチが嫌う成分を配合するなど養蜂に配慮した成分となっており、ミツバチが誘引されることはなく、養蜂に与える影響はほとんどありません。

3 今後の対応

環境省と連携して、調査や防除を進めるとともに、スズメバチ等の駆除業者からの情報収集を行います。

4 発見した場合

ツマアカスズメバチの個体や巣を発見した場合は、近寄らず、刺激しないでください。
また、発見場所等の情報について、環境省九州地方環境事務所または福岡市環境局環境調整課までお知らせください。

環境省九州地方環境事務所野生生物課 電話(096)322-2413 FAX(096)322-2447
福岡市環境局環境調整課 電話(092)733-5389 FAX(092)733-5592



【問い合わせ先】

(特定外来生物に関すること)

環境局環境調整課 後藤

TEL : (092)733-5388 内線 2430

FAX : (092)733-5592

<参考>

1 ツマアカスズメバチについて

- ・体は全体的に黒っぽく、腹部の先端がオレンジ色
(体長 女王バチ 30mm、オス 24mm、働きバチ 20mm 前後)



(写真提供：環境省)

- ・中国、台湾、東南アジア、南アジア原産
- ・在来のスズメバチよりも大きな巣をつくる。樹木の高い位置に巣をつくることが多い。
- ・おもに昆虫類（ミツバチを含む）を捕食する。
- ・在来スズメバチの減少や捕食される昆虫の減少による生態系のかく乱といった生態系への影響、飼育ミツバチへの攻撃、養蜂や受粉への被害といった農林業（養蜂）への影響が懸念される。
- ・人への影響としては、在来スズメバチと同様、人への刺傷被害があるが、特に攻撃性や毒性が強いということはない。

2 国内での確認状況について

- ・平成 24 年 10 月長崎県対馬市で国内初確認、その後定着。
- ・平成 27 年 9 月福岡県北九州市、平成 28 年 5 月宮崎県日南市、平成 29 年 9 月長崎県壱岐市、平成 30 年 10 月大分県大分市、令和元年 11 月山口県防府市で確認されたが、いずれも駆除。現在まで確認されていない。
- ・令和 4 年 5 月に福岡県福岡市及び福岡県久山町で確認され、その後の生息状況等緊急調査において、久山町で再度確認された。
- ・福岡市では平成 26 年度～令和 3 年度にかけて、港湾区域周辺にて毎年調査を実施してきたが、確認されていなかった。

福岡県福岡市及び糟屋郡久山町における ツマアカスズメバチ緊急防除の実施について

令和4年10月3日（月）

環境省

九州地方環境事務所 野生生物課

課長：大澤 隆文

課長補佐：安藤 忍

TEL：096-322-2413

（化学的防除の科学的内容について
の問合せ先）

国立環境研究所 生物多様性領域

生態リスク評価・対策研究室

室長：五箇 公一

TEL：0298-50-2480

<福岡県、福岡市、久山町同時発表>

外来生物法に基づき特定外来生物に指定されているツマアカスズメバチが、令和4年5月以降、福岡県福岡市東区及び久山町等で確認されてきたことを受け、在来の生態系や養蜂業への影響を抑えるため、環境省九州地方環境事務所では生息状況等調査や、巣を発見し駆除することを目的に巣の探索調査を実施しています。また、その結果も踏まえつつ平行して行なわれた九州大学による調査では1個の巣が発見されました。他方、全ての巣を発見できない可能性も考慮し、巣の位置が不明であっても防除が可能な化学的防除も実施することとしました。化学的防除は、周辺にスズメバチ類が集まる可能性もあり、防除現場においてはできるだけ近づかないようお願い致します。

1. 福岡市及び久山町におけるツマアカスズメバチの初確認以降の経緯

令和4年4月28日に福岡市東区、5月6日に久山町において、私有地内でスズメバチの個体（それぞれ1個体）が発見されました。専門家による種の同定の結果、5月9日にいずれの個体もツマアカスズメバチの女王バチであることが確認されました。その後、5月19日から6月6日にかけて実施した調査で、久山町において1個体（オスバチ）が新たに確認されました。

さらに、6月29日から7月15日にかけて個体（オスバチ）の確認地点周辺で調査を実施したところ、新たなツマアカスズメバチの個体は確認されませんでした。

しかし、九州大学の上野高敏准教授による調査で8月以降、久山町及び篠栗町においてツマアカスズメバチが再度確認されました。

※詳細については、報道発表資料を御参照ください。

令和4年5月9日（月）発表

「福岡県福岡市におけるツマアカスズメバチの確認について」

http://kyushu.env.go.jp/pre_2022/post_158.html

令和4年5月10日（火）発表

「福岡県糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチの確認について」

http://kyushu.env.go.jp/pre_2022/5.html

令和4年6月8日（水）発表

「福岡県福岡市及び糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチ生息状況等緊急調査の結果について」

https://kyushu.env.go.jp/pre_2022/68.html

令和4年7月20日(水) 発表

「福岡県糟屋郡久山町におけるツマアカスズメバチ生息状況等緊急調査の結果について」

https://kyushu.env.go.jp/press_00010.html

2. 今般の調査及び防除の概要

令和4年9月10日から25日にかけて、これまでツマアカスズメバチが確認された地点から3km圏内を中心に、公園や緑地、樹林地等、ツマアカスズメバチの営巣の可能性がある場所に約700個のトラップを設置しました。また、同期間中、同様の範囲において個体及び巣の目視調査を併せて行いました。当該調査では、福岡市東区、久山町及び篠栗町内でツマアカスズメバチ約30個体が発見されました。さらに、こうした調査の結果及びこれまでの確認情報から、関係機関と連携し、ツマアカスズメバチの巣が存在する可能性が高いと考えられる久山町山田、久原及び福岡市東区下原周辺にて、蜜によりツマアカスズメバチを誘引し、帰巣する方向を追跡することで巣を発見し駆除することを目指す巣の探索調査を実施しています。また、その結果も踏まえつつ平行して行なわれた九州大学による調査では福岡市東区にて1個の巣が発見され、九州地方環境事務所により駆除を行います。

加えて、巣の探索調査と並行し、全ての巣を発見できない場合でもツマアカスズメバチの駆除を行える方法として、同じ範囲で市販のスズメバチ駆除用薬剤を用いた化学的駆除を実施します。これは、薬剤を含んだスズメバチ類が好む餌が入ったトラップにツマアカスズメバチを誘引し、巣に薬剤を持ち帰らせ、巣に生息している他のハチに分け与えることで巣ごとツマアカスズメバチを駆除するものです。薬剤には、ミツバチが嫌う成分を配合するなど養蜂に配慮した成分となっており、ミツバチが誘引されることはなく、養蜂に与える影響はほとんどありません。

なお、調査に関しては九州大学の、化学的防除に関しては国立環境研究所の指導の下で、順次、準備・実施をしています。



スズメバチ駆除用薬剤の外観（写真提供：アース製薬株式会社）

3. 今後の対応

ツマアカスズメバチは、高い繁殖力と分布拡大能力を有していることから、一旦定着してしまうと根絶が難しく、在来の生態系に対して被害を与えるほか、ミツバチを好んで捕食することから、養蜂業にも影響が出ると考えられ、早期発見、早期駆除により定着前に根絶を図ることが重要です。そのため、巣の探索及び化学的防除を実施することとしました。

防除の効果については来春以降に再度調査を行うとともに、関係機関と協力し、引き続き侵入の監視等に努めます。

4. 住民の皆様へ

ツマアカスズメバチは生態系や養蜂業等に悪影響を及ぼすおそれがあり、警戒が必要です。在来のオオスズメバチ等と比較して、特に人体に関わる被害が大きいことはありません。

福岡市及び久山町で初めてツマアカスズメバチが確認された事例では、養蜂関係者からの迅速な通報により、早期に対策を実施することができました。早期発見、早期駆除のため、福岡県内においてツマアカスズメバチと疑われる個体や巣を確認された場合は、お住まいの自治体または九州地方環境事務所までご連絡いただき、情報提供にご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、化学的防除に使用する薬剤につきましては、人目につきにくい場所へ設置しますが、周辺にスズメバチ類（在来スズメバチ類を含む）が集まっている場合がありますので、防除現場を目撃した場合でも、できるだけ近づかないようにお願いいたします。

5. 情報提供のお願い

九州地方に限らず、ツマアカスズメバチの定着が確認されている地域（韓国・釜山港など）と往来のある港湾等においては、侵入のリスクがあります。

地方自治体や駆除業者、養蜂業者の方々につきましては、ツマアカスズメバチと思われる個体が発見された場合には、管轄区域の環境省地方環境事務所にご連絡ください。

連絡先 URL : <http://www.env.go.jp/region/index.html>

(参考)

ツマアカスズメバチについて

1. 生態について

- 原産地：中国、台湾、東南アジア、南アジア
- 日本での定着状況：長崎県対馬（平成24年10月に初確認。侵入経路は不明。）
- 樹木の高い位置に営巣することが多い。主にミツバチなどの昆虫類を捕食する。

2. 懸念される影響

- (1) 生態系に関わる影響：在来種との競合
- (2) 農林水産業に関わる影響：養蜂業への影響
- (3) 人体に関わる被害：刺傷被害

※海外では、韓国やヨーロッパ（フランス、スペイン）で定着が確認されており、飼育されているミツバチや、在来のスズメバチの減少が報告されている。

※在来のオオスズメバチ等と比較して、特に人体に関わる被害が大きいことはない。

